

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62100	観光宣伝推進事業費		担当課	商工観光部 観光課	内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6	商工費		分野	1	観光
	項	2	観光費		基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう
	目	1	観光振興費		施策	1	戦略的な誘客宣伝
	根拠計画	高山市産業振興計画					
実施計画事業	広域観光推進事業、おもてなしのこころ醸成事業、観光情報等発信事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	・高山への来訪促進 ・周遊・滞在観光の魅力の向上 ・観光情報発信の強化		
概要	事業の実施手法(手段)	・印刷物・HPなど各種媒体を活用した誘客宣伝 ・広域連携、民間事業者と連携した誘客宣伝 ・各種キャンペーン、物産展等出向宣伝によるPR ・継続的なイベントや関係他団体事業支援等の実施による誘客宣伝		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・誘客パンフレットやDVD、HP等による情報発信 ・物産展、旅行エージェント、メディアを活用した宣伝 ・各種旅行関係者の視察受入 ・高山本線全線開通80周年記念事業の実施、中部山岳国立公園指定80周年記念事業の実施																																																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標 総合パンフレット作成部数</td> <td rowspan="2">部</td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>200,000</td> <td>200,000</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動指標 ぶらり散策マップ作成部数</td> <td rowspan="2">部</td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>645,000</td> <td>800,000</td> <td>800,000</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標 観光客入込数</td> <td rowspan="2">千人</td> <td>目標値</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>3,769</td> <td>3,945</td> <td>4,025</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td>高山市観光統計</td> <td>達成率(%)</td> <td>75</td> <td>79</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標 外国人観光客入込数</td> <td rowspan="2">千人</td> <td>目標値</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>151</td> <td>225</td> <td>280</td> </tr> <tr> <td>算出根拠等</td> <td>高山市観光統計</td> <td>達成率(%)</td> <td>50</td> <td>75</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td colspan="5">補足事項</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)</th> <th>H24 決算額</th> <th>H25 決算額</th> <th>H26 決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歳出(千円)</td> <td>(A) 15,672</td> <td>21,829</td> <td>24,083</td> </tr> <tr> <td>受益者負担(使用料・負担金等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特定財源(国・県支出金・起債等)</td> <td>15,672</td> <td>21,829</td> <td>24,083</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コスト指標 受益者1件当たり(円)</td> <td>(A/B) 169</td> <td>237</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>受益者</td> <td>(B) 市民(4月1日現在)</td> <td>92,861</td> <td>92,097</td> <td>91,605</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody></table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	活動指標 総合パンフレット作成部数	部	目標値				実績値	200,000	200,000	200,000	算出根拠等		達成率(%)				活動指標 ぶらり散策マップ作成部数	部	目標値				実績値	645,000	800,000	800,000	算出根拠等		達成率(%)				成果指標 観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000	実績値	3,769	3,945	4,025	算出根拠等	高山市観光統計	達成率(%)	75	79	81	成果指標 外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300	実績値	151	225	280	算出根拠等	高山市観光統計	達成率(%)	50	75	93	補足事項					<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)</th> <th>H24 決算額</th> <th>H25 決算額</th> <th>H26 決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歳出(千円)</td> <td>(A) 15,672</td> <td>21,829</td> <td>24,083</td> </tr> <tr> <td>受益者負担(使用料・負担金等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特定財源(国・県支出金・起債等)</td> <td>15,672</td> <td>21,829</td> <td>24,083</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コスト指標 受益者1件当たり(円)</td> <td>(A/B) 169</td> <td>237</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>受益者</td> <td>(B) 市民(4月1日現在)</td> <td>92,861</td> <td>92,097</td> <td>91,605</td> </tr> </tbody> </table>					事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	歳出(千円)	(A) 15,672	21,829	24,083	受益者負担(使用料・負担金等)				その他特定財源(国・県支出金・起債等)	15,672	21,829	24,083	一般財源				コスト指標 受益者1件当たり(円)	(A/B) 169	237	263	受益者	(B) 市民(4月1日現在)	92,861	92,097	91,605
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																																												
	活動指標 総合パンフレット作成部数	部	目標値																																																																																																															
			実績値	200,000	200,000	200,000																																																																																																												
	算出根拠等		達成率(%)																																																																																																															
	活動指標 ぶらり散策マップ作成部数	部	目標値																																																																																																															
			実績値	645,000	800,000	800,000																																																																																																												
	算出根拠等		達成率(%)																																																																																																															
	成果指標 観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000																																																																																																												
			実績値	3,769	3,945	4,025																																																																																																												
	算出根拠等	高山市観光統計	達成率(%)	75	79	81																																																																																																												
	成果指標 外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300																																																																																																												
			実績値	151	225	280																																																																																																												
	算出根拠等	高山市観光統計	達成率(%)	50	75	93																																																																																																												
補足事項																																																																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)</th> <th>H24 決算額</th> <th>H25 決算額</th> <th>H26 決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歳出(千円)</td> <td>(A) 15,672</td> <td>21,829</td> <td>24,083</td> </tr> <tr> <td>受益者負担(使用料・負担金等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他特定財源(国・県支出金・起債等)</td> <td>15,672</td> <td>21,829</td> <td>24,083</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コスト指標 受益者1件当たり(円)</td> <td>(A/B) 169</td> <td>237</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>受益者</td> <td>(B) 市民(4月1日現在)</td> <td>92,861</td> <td>92,097</td> <td>91,605</td> </tr> </tbody> </table>					事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	歳出(千円)	(A) 15,672	21,829	24,083	受益者負担(使用料・負担金等)				その他特定財源(国・県支出金・起債等)	15,672	21,829	24,083	一般財源				コスト指標 受益者1件当たり(円)	(A/B) 169	237	263	受益者	(B) 市民(4月1日現在)	92,861	92,097	91,605																																																																																	
事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額																																																																																																															
歳出(千円)	(A) 15,672	21,829	24,083																																																																																																															
受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																																																		
その他特定財源(国・県支出金・起債等)	15,672	21,829	24,083																																																																																																															
一般財源																																																																																																																		
コスト指標 受益者1件当たり(円)	(A/B) 169	237	263																																																																																																															
受益者	(B) 市民(4月1日現在)	92,861	92,097	91,605																																																																																																														

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・観光客による経済活動は地域の活性化につながり、市民のニーズに沿う事業である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・平成23年度から市域全体にかかる民間団体による誘客宣伝も実施されている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・堅調な外国人観光客数の増加と、官民一体となった誘客キャンペーンやイベントを実施したことにより、平成21年以来5年ぶりに400万人を超えた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・最小限のコストで実施しているが、外部からの補助金活用等、情報収集にも力を入れる必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・観光宣伝事業の実施は、市の政策、市長公約において効果があり、目標達成を図る上では更なる観光宣伝事業が必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算 70 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを必要なのかを記入)	・観光客のニーズの把握と動向を的確に捉えた、有効な観光宣伝活動
--------------------------------------	---------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・観光宣伝は、ターゲットに応じて常に最適な宣伝方法・媒体を選択し、効果的に実施する必要がある。
----------------------	-------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・観光統計、アンケート調査の分析によるニーズ把握のほか、全国的な観光動向に対応した観光宣伝をする。
------------------	---------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・物産展や旅行エージェント、メディアと連携した宣伝の強化を図る。 ・ポスターを活用した宣伝をする。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62110	高山祭事業費		担当課	商工観光部 観光課	内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6	商工費		分野	1	観光
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のところを魅了する滞在型・通年型の観光地づくりを行う
	目	1	観光振興費		施策	1	多様な観光需要への対応
	根拠計画	高山市産業振興計画					
実施計画事業	観光イベント開催事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(高山祭来訪者)	対象者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 高山祭の認知度の向上と来訪者の増加を図る。 高山祭を安全に実施する。 		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 祭協賛会組織による官民一体となった誘客宣伝 来訪者の受入体制の整備 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> 観光キャンペーン等による事前PR 祭行事等観光案内業務、誘導看板の設置 観光客等の安全な誘導に必要な警備、器材設置等 					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	高山祭入出	千人	目標値			
		算出根拠等		実績値	411	363	373
	成果指標	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
		算出根拠等		実績値	3,769	3,945	4,025
	成果指標			達成率(%)	75	79	81
		算出根拠等					
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	成果指標			目標値			
算出根拠等			実績値				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	5,645	5,424	5,838	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			5,645	5,424	5,838	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	61	59	64	
	受益者 市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか 	A (2) ニーズが高い	A	・市を代表する観光資源として、高山祭を宣伝すること及び安全に実施することは必要不可欠である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか 	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・重要な観光資源でもあり、市が協賛会の事務局として、誘客宣伝や受入体制の整備を行うことは、観光客の増加を図るうえで妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	<ul style="list-style-type: none"> 目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか 	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	・天候にも恵まれ、春秋合わせての入出数は増加した。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	<ul style="list-style-type: none"> 最小限のコストで事業を実施できているか 委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか 受益者負担は適正か 	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・最小限のコストで事業を実施しているが、景況の厳しき等から受益者負担額が減少し、その分、市の負担が増加する傾向である。また、近年増加している外国人観光客への対応(通訳の配置)が必要となっている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか 市長公約の実現を図る上で有効に機能したか 	A (2) 効果があった	B	・誘客事業の一つとして一定の効果はあるが、市長公約の実現にはさらなる事業推進が必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客に対する高山祭の認知度を向上させ、更なる誘客を図ることが必要である。 警察署や神社(宮本、年行司)と連携し安全対策に努め、事故の発生を抑えることが必要である。 近年増加している外国人観光客への対応(通訳の配置)が必要となっている。
----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客の対応を強化し、国内外から観光客の誘致を図る。 安全、安心な事業実施と観光案内を実施する。
----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 増加する外国人観光客に対応するため、海外戦略課を通じ、通訳ボランティアを募り、随所に配置する。 警察署や神社(宮本、年行司)と連携し、安全対策に努める。
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客の対応を強化し、国内外から観光客の誘致を図る。 安全、安心な事業実施と観光案内を実施する。 ユネスコ世界無形文化遺産登録に向けた協議が進められる中、文化の伝承を意識した誘客活動を図る。 					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62130	飛騨高山観光誘致推進協議会負担金	担当課	商工観光部 観光課	内線	2217
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6 商工費		分野	1 観光	
	項	2 観光費		基本施策	2 多くの人々に地域の魅力を知ってもらう	
	目	1 観光振興費		施策	1 戦略的な誘客宣伝	
根拠計画	高山市産業振興計画					
実施計画事業	観光誘客推進事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	・高山訪問の動機づけ及び周遊型・滞在型観光の魅力向上による観光客及び教育旅行誘致		
概要	事業の実手法(手段)	・飛騨・高山観光コンベンション協会や飛騨高山旅館ホテル協同組合等、民間団体と連携した誘客事業		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、物産展等を活用した宣伝 ・ライトアップ、きものさんぽ、雛まつり、端午の節句、ぐるりスタンプラリー等のイベント ・JRと連携した観光キャンペーン ・岐阜県や姉妹友好都市等と連携した観光キャンペーン ・教育旅行エージェンツ訪問やパンフレット・DVD作成等による情報発信					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	出向宣伝回数	回	目標値			
				実績値	11	18	23
	活動指標	算出根拠等	社	目標値			
				実績値	10	10	13
	成果指標	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
				実績値	3,769	3,945	4,025
	成果指標	外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300
				実績値	151	225	280
	成果指標	教育旅行の入込数	千人	目標値			
				実績値	104	97	87
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 19,300	19,300	19,300		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		18,400	19,300	19,300		
	一般財源		900				
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 208	210	211		
	受益者 市民(4月1日現在)		(B) 92,681	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・観光客の増加が地域経済の活性化につながるため市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市内全体の観光資源や観光情報を把握し、効果的に誘客事業を行う上で行政の視点を含めた運営が必要であり、市が事務局となって活動することが適当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・長引く不況の影響を受け、ここ数年の観光客数は伸び悩んでいたが、年々回復している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・観光関係団体からの負担金含め、官民共同で事業を実施しているが、事業の効率化を検討する必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市の誘客推進を図るうえで核となる事業であり、不況や震災等の影響がある中で一定の効果があった。 ・観光客のニーズにあった事業を実施する必要がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・高山の認知度を向上させる更なる誘客 ・観光客のニーズに合った手法による効果的な誘客活動の実施 ・ターゲットを明確にした誘客宣伝の強化
----------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・官民共同による誘客事業の継続 ・支所地域の観光関係団体との連携 ・時代や観光客のニーズに合った手法による効果的な誘客活動
----------------------	---------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・地域資源を活かしたスポーツツーリズム(ウルトラマラソン開催)やグリーンツーリズム等による新たなターゲットへのPRを実施する。
------------------	-----------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・官民共同による誘客事業の継続 ・支所地域の観光関係団体との連携 ・観光客のニーズに合った手法による効果的な誘客活動 ・ターゲットを明確にした誘客宣伝の強化					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62140	飛騨高山ウルトラマラソン実行委員会負担金	担当課	商工観光部 観光課	内線
種別					2217
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6 商工費		分野	1 観光
	項	2 観光費		基本施策	2 多くの人々に地域の魅力を知ってもらう
	目	1 観光振興費		施策	1 戦略的な誘客宣伝
根拠計画	高山市産業振興計画				
実施計画事業	観光イベント開催事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	・飛騨高山ウルトラマラソン開催による地域のPR、新たな観光客の獲得 ・大会開催による地域経済の活性化や地域力の向上		
概要	事業の実施手法(手段)	・ランニング専門誌、各種ホームページ、マラソン愛好家へのDM発送により、全国から参加者を募集することで、地域のPRや新たな観光客層を獲得する。また、大会運営に必要な物資等は市内調達を最優先とし、地域経済の活性化を図る。 ・各種団体、企業、市民ボランティア等を広く募り、官民一体となって開催することで、地域力の向上を図る。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・第3回飛騨高山ウルトラマラソンの開催(広報活動、ボランティアの募集、説明会の開催、各種制作物の作成、スポンサーの募集など) ・第4回大会の募集(ランニング専門誌への広告掲載、各種ホームページ、マラソン愛好家へのDM発送、コース等の一部変更など)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	市内業者への発注	千円	目標値	15,000	15,000	15,000
				実績値	13,758	14,035	17,840
				算出根拠等	達成率(%)	92	94
	活動指標	大会PR及び参加募集に係るDM発送	人	目標値	8,000	8,000	8,000
				実績値	8,000	8,000	8,000
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	大会PR及び参加募集に係る雑誌への掲載(発行部数)	部	目標値	270,000.0	270,000	270,000
				実績値	270,000	270,000	270,000
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	市内の経済波及効果	千円	目標値	200,000	200,000	200,000
				実績値	107,008	159,643	200,002
				算出根拠等	達成率(%)	54	80
	成果指標	大会申込人数	人	目標値	1,000	2,000	2,500
実績値				1,158	1,929	2,495	
算出根拠等				達成率(%)	116	96	100
			目標値				
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	10,000	3,000	1,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			10,000	3,000	1,000	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	108	33	11	
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) ニーズが高い	B	・2,200人を超える選手や関係者が宿泊し、観光などを行うため、市内の経済波及効果は高いと考える。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・大会が軌道にのるまでは、市が事業主体となる必要があるが、将来的には、地域の活性化をより図るため、受益団体等が運営する手法を考えていく必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	市内の経済波及効果が目標に達した。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・参加人数を増やすことで運営経費を確保し、市の負担を減らしていくが、コースや会場のキャパシティ、安全面、スタッフの確保等に課題がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・魅力的な地域資源を活用したマラソン大会を開催することで、多くの方が当市を訪問し、観光客の拡大に結び付いている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・全地域が、経済効果や地域力の向上を感じられる大会運営 ・市の財政負担がなくても、実施できる運営手法 ・参加人数を増やした場合の会場やスタッフの確保
----------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・企業に対し協賛を呼びかけ、市負担金に頼らない大会運営を行う必要がある。
----------------------	--------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・募集人数を2,500名から3,000名に増やし、運営経費を確保する。 ・人数増加に対応するため、スタート/フィニッシュ会場をビッグアリーナにする。 ・丹生川地域の周回コースを廃止し清見地域へコースを展開する。
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・市全体が経済効果や地域力の向上を感じられる大会を開催する。 ・大会を支えるスタッフが、また参加したいと思える環境を構築する。 ・リピーターや連泊者が増加する取り組みを強化する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62145	観光協会等補助金(コンベンションを除く)	担当課	商工観光部 観光課	内線
種別	1				2216
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6 商工費		分野	1 観光
	項	2 観光費		基本施策	2 多くの人々に地域の魅力を知ってもらう
	目	1 観光振興費		施策	1 戦略的な誘客宣伝
根拠計画	高山市産業振興計画				
実施計画事業	観光協会助成事業、誘客推進事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	様々なツールを活用して飛騨高山を広く国内外にPRし、観光事業の振興及び年間を通じた観光客の誘致促進を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	【観光協会運営費補助金】 会費収入額を基準として、限度額370万円(会費収入500万円以上)、130万円(会費収入500万円未満)の補助を行う 【観光客誘致推進事業補助金】 総額1億円を限度として、観光宣伝、情報発信、地域資源活用事業等に補助を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	【観光協会運営費補助金】 市内10観光協会に対する補助金 14,987千円 【観光客誘致推進事業補助金】 観光連絡協議会に対する補助金 100,000千円					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	観光協会等補助件数 (観光協会運営費補助金、観光客誘致推進事業補助金) 算出根拠等	件	目標値	11	11	11
				実績値	11	11	11
				達成率(%)	100	100	100
	活動指標	観光協会等補助金額 (観光協会運営費補助金、観光客誘致推進事業補助金) 算出根拠等	千円	目標値	115,000	115,000	115,000
				実績値	108,405	114,591	114,987
				達成率(%)	94	100	100
	成果指標	観光客入込数 算出根拠等	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
				実績値	3,769	3,945	4,025
				達成率(%)	75	79	81
	成果指標	外国人観光客入込数 算出根拠等	千人	目標値	300	300	300
				実績値	151	225	280
				達成率(%)	50	75	93
		算出根拠等		目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 108,405	114,591	114,987		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		108,405	114,591	114,987		
	一般財源						
	コスト 指標		受益者1件当たり(円)	(A/B) 1,167	1,244	1,255	
		受益者 市民(4月1日現在)	(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・観光協会等の各種誘致推進事業は、観光関連産業をはじめとする地域経済への影響が大きい
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・官民一体となって観光客誘致推進事業を行っており、それぞれ役割分担をしている。観光協会運営費補助事業については、各観光協会の運営にかかる経費を助成し、市は適正な執行について管理しながら実施しているため、当該事業の主体が市であることは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・様々な誘客キャンペーンやイベント等を実施した結果、観光客入込数は震災前の平成22年比105.6%(4,025千人)まで回復し、成果が上がっている。また、外国人観光客について、宿泊ペースで過去最高の280千人だった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・観光協会補助金については、予算決算を確認し、補助対象についてチェックしており、適正に執行している。 ・観光客誘致推進事業については、最小限のコストで影響の大きいキャンペーンやイベント等を実施するよう努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・誘客事業の一つとして一定の効果はあるが、市長公約である年間観光客500万人、外国人観光客30万人の集客にはさらなる事業推進が必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・観光客誘致推進事業補助金については、通年型、滞在型の観光地づくりを推し進めるため、各観光協会同士の情報共有と連携強化、広域的な誘客活動が必要である。 ・社会経済情勢や旅行者ニーズの変化の先を見越したイベント、キャンペーン等の実施が必要である。
---------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・観光客誘致推進事業補助金については、平成25、26年度の実績及び分析を踏まえ、事業内容を取捨選択し、より効果のある事業を実施する。
----------------------	--------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・観光客誘致推進事業補助金については、平成26年度の実績を踏まえて、誘客により効果のある事業・地域・方法を選択し、事業計画を立てて実施中。 ・様々な事業やイベント、ツールを活用して、国内外へ「飛騨高山」を積極的にPRし、観光客500万人及び外国人観光客30万人を目指す。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H26完了	<input type="checkbox"/> H27完了予定
	・観光客誘致推進事業補助金については、平成26、27年度の実績及び分析を踏まえ、事業内容を取捨選択し、より効果のある事業を実施する。					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> H26完了	<input type="checkbox"/> H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62145	観光協会等補助金(コンベンションビューロー助成、コンベンション開催支援)	担当課	商工観光部 観光課	内線	2216
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6 商工費		分野	1 観光	
	項	2 観光費		基本施策	2 多くの人々に地域の魅力を知ってもらう	
	目	1 観光振興費		施策	1 戦略的な誘客宣伝	
	根拠計画	高山市産業振興計画				
実施計画事業	飛騨・高山コンベンションビューロー助成事業、コンベンション開催支援事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	・高山市内でコンベンションを開催することにより、交流人口の拡大、学術文化の振興及び地域経済の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	【飛騨・高山コンベンションビューロー助成事業】 （一社）飛騨・高山観光コンベンション協会が行うコンベンション誘致に係る事業に対して補助を行う【コンベンション開催支援事業】 高山市内で開催される一定条件を満たしたコンベンションに対して支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	【飛騨・高山コンベンションビューロー助成事業】 関東圏、中京圏、関西圏の各企業団体の事務局、大学の学会事務局など32団体を訪問 飛騨・高山地域で80件(59,024人)のコンベンションを開催(補助対象外コンベンションを含む) 【コンベンション開催支援事業】 補助対象コンベンション開催数:69件、参加者数(飛騨地域を除く):14,727人、実績額:15,020千円					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	コンベンション開催支援補助金	千円	目標値	20,000	20,000	20,000
				実績値	9,740	9,380	15,020
				算出根拠等	達成率(%)	49	47
	活動指標	コンベンション誘致訪問件数	件	目標値			
				実績値	48	32	72
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標	補助対象コンベンション開催数	件	目標値	31	31	31
				実績値	35	47	69
				算出根拠等	達成率(%)	113	152
	成果指標	補助対象コンベンション参加者数(飛騨地域を除く)	人	目標値	15,500	15,500	15,500
				実績値	11,576	8,968	13,883
				算出根拠等	達成率(%)	75	58
	成果指標	観光入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
実績値				3,769	3,945	4,025	
算出根拠等				達成率(%)	75	79	81
			目標値				
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	15,803	15,443	21,083	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			15,803	15,443	21,083	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,365	1,722	1,519		
	受益者	補助対象コンベンション参加者数(飛騨地域を除く)	(B)	11,576	8,968	13,883	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・年々コンベンションの支援を活用する団体が増えており、コンベンション開催回数の増加は高山市への観光入込者数の増加につながることから、ある程度のニーズはある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・コンベンション開催により、観光入込者数を増やし、地域の活性化を図るため、市が事業主体であることは妥当である。また、（一社）飛騨・高山観光コンベンション協会と事業の住み分けをし、互いにチェックし合いながら進めている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・目的とする成果が上っており、今後もより積極的に誘致活動を行っていく。
		B (1) 目的とする成果がある程度あげられている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	申請、実施資料のチェックも行っており、適正に執行している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・コンベンション開催のリピーターも徐々に増えてきており、固定的な観光客となりつつある。観光客500万人を超えるためには、より一層積極的な誘致が必要となる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを何が必要なのかを記入)	・国内会議のコンベンション件数は増加傾向にあるが、より一層の拡大を図るうえでは、国際会議、スポーツ大会等の積極的な誘致が必要である。 ・コンベンション支援内容の積極的なアピール、市内民間事業者への事業内容の説明など、全市を挙げた取り組みに発展させるための具体的な取組みを検討する必要がある。
----------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・コンベンション誘致に伴う経済効果について、把握・検証する必要がある。
----------------------	-------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・コンベンション誘致の訪問地及び業種を拡大する。
------------------	--------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・継続した誘致訪問活動を実施する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・コンベンション誘致に伴う経済効果について、把握・検証する必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62150	観光振興関係事務費			担当課	商工観光部 観光課	内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	6	商工費		分野	1	観光	
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のところを魅了する滞在型・通年型の観光地づくりを行う	
	目	1	観光振興費		施策	1	多様な観光需要への対応	
根拠計画	高山市産業振興計画							
実施計画事業	広域観光推進事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客(外国人観光客を含む)、市内民間事業者等	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査、統計等の作成及び分析とそれに基づく戦略的観光施策の策定と実施による観光客誘致 情報通信技術を活用した観光情報の積極的な提供 ユニバーサルデザインに基づく観光案内の整備 各種協議会などを活用した広域的な観光客誘致促進事業の展開 		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 観光統計、交通量調査等の実施及び分析、各種観光資料に基づいた戦略的観光施策の検討 携帯端末の位置情報発信機能を活用した観光情報提供システムの導入 各種協議会への積極的な参加及びイベント、キャンペーン等の実施 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> 観光統計の作成、交通量調査等の実施 各種協議会事業の実施(キャンペーン等への出役等) おもてなし文化振興事業(芸術育成)に対する助成 					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	バリアフリー情報端末設置台数	台	目標値	10	10	10
				実績値	10	10	10
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
	活動指標	おもてなし文化振興事業補助対象者	人	目標値	-	18	15
				実績値	-	7	7
		算出根拠等		達成率(%)		39	47
	成果指標	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
				実績値	3,769	3,945	4,025
		算出根拠等		達成率(%)	75	79	81
	成果指標	外国人観光客入込数	千人	目標値	300	300	300
				実績値	151	225	280
		算出根拠等		達成率(%)	50	75	93
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 8,853	8,538	14,729		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		6,093	8,538	5,000		
	一般財源		2,760		9,729		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 95	93	161		
	受益者	市民(4月1日現在)	(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・積極的な誘客事業や観光客受入の環境を整えることが観光客の増加に繋がるため、地域経済への影響が大きい。 ・平成26年度は観光客が前年と比べて増加しており、高山市にとって観光客誘致は喫緊の課題であるため、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・周辺地域との協議を進めながら、広域的な範囲での観光客誘致事業を進めており、飛騨地域全体の活性化を図るうえで市が参画することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・様々な誘客キャンペーンやイベント等を実施した結果、入込客数が対前年比約2%増加させることができ、成果がある程度あがっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・各種負担金や事務経費等については、効率化・省力化を意識し、適正に執行している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・観光客500万人の達成には至っていないが、入込客数を増加傾向に転じることができ市長公約の実現に向けてある程度効果があったと考える。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が重要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 観光統計や観光はがきアンケート等のデータ分析に基づき、市民や観光客のニーズに合った、新たな戦略的施策の検討や実施をしていく必要がある。 滞在型、通年型の観光地としての魅力の向上を図る必要がある。
---------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報提供システムの効果的な運用及び分析 観光関連アンケートの実施及び分析とそれに基づいた戦略的観光施策の検討 北陸新幹線開業への対応
----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光統計に必要なデータを収集するため、旅館等に対して行う宿泊者数調査や、観光客に対して行う観光はがきアンケートを引き続き実施する。 北陸新幹線を利用した首都圏からの観光客誘致を図る。 観光地「飛騨高山」のブランド力の向上を図る。 高齢者や障がい者などを対象としたバリアフリー観光をコーディネートする団体を育成する。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 観光情報提供システムの効果的な運用及び分析を行う。 観光関連アンケートの実施及び分析とそれに基づいた戦略的観光施策を検討する。 北陸新幹線を利用した首都圏からの観光客誘致を図る。 					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー観光の推進を図る必要がある。 					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62155	旅行博覧会出展事業		担当課	商工観光部 観光課	内線	2217
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6	商工費		分野	1	観光
	項	2	観光費		基本施策	2	多くの人々に地域の魅力を知ってもらう
	目	1	観光振興費		施策	1	戦略的な誘客宣伝
根拠計画	高山市産業振興計画						
実施計画事業	誘客推進事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	旅行目的の来場者や業界関係者へ、高山訪問の動機づけ及び周遊・滞在観光の魅力向上		
概要	事業の実手法(手段)	飛騨・高山観光コンベンション協会等の民間団体と連携した誘客事業		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	「ツーリズムEXPOジャパン2015」に出展し、写真や地場産品の展示、観光パンフレットの配布などを実施 ・ブース設置は、北陸飛騨3つ星協議会と金沢市と連携 ・地酒PRの一環として試飲を実施 ・海外戦略室と連携し国際商談会へ参加					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	ツーリズムEXPOジャパン入場者数 (H24、H25はJATA旅博の入場者数)	人	目標値			
		実績値	125,989	131,058	157,589		
		算出根拠等		達成率(%)			
	成果指標	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
		実績値	3,769	3,945	4,025		
		算出根拠等		達成率(%)	75	79	81
	成果指標	外国人観光客入込数	千人	目標値	300.0	300	300
		実績値	151	225	280		
		算出根拠等		達成率(%)	50	75	93
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	2,883	2,981	3,159	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			2,883	2,981	3,159	
	一般財源						
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	31	32	34		
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・観光客増加による地域経済への波及は、市の活性化につながることから、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・社会経済情勢や旅行者ニーズの変化を的確にとらえた施策を展開するため、市が主体となって官民共同で誘客宣伝をする必要はあるが、市と各協議会が行う事業の費用負担や役割などのすみわけについては、今後整理が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・「ツーリズムEXPOジャパン」は国内最大規模の旅の祭典で、多くの来場者があるが、飛騨高山ブースに人を集めるために更なる工夫が必要である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・北陸新幹線開業を見据え、北陸飛騨3つ星協議会や金沢市と連携したブース設置するなど、限られた出展スペースを有効利用した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・平成26年度の観光客数は、前年よりも2%の増加となっており、観光客の増加に結びついている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・他団体より目立つために、より宣伝効果の高いブースの設置と運営が必要
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・効果的なPR方法の検討と効率的な事業実施
----------------------	-----------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・飛騨高山観光客誘致推進協議会の事業として実施する。
------------------	----------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・効果的なPR方法を検討するとともに効率的な事業を実施する。					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62300	観光施設運営事業費		担当課	商工観光部 観光課	内線	2209
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6	商工費		分野	1	観光
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型の観光地づくりを行う
	目	2	観光施設費		施策	3	観光関連施設の整備
	根拠計画	高山市産業振興計画					
実施計画事業	観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事業、新穂高エリア環境整備事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客及び市民	対象者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	・自然資源の活用施設や体験交流施設など観光関連施設の整備を促進することにより、滞在型観光地づくりを推進するとともに地域の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・観光施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・観光施設26施設の管理運営(うち指定管理による運営24施設) ・観光施設整備(飛騨民俗村旧田中家屋根葺替工事、新穂高鍋平登山者用駐車場造成工事、しぶきの湯遊湯館温泉ポンプ取替工事、乗鞍バスターミナル発電機修繕工事、ジョイフル木の木消防設備修繕工事ほか)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	管理施設数	箇所	目標値	26	26	26
				実績値	26	26	26
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	施設利用者数	千人	目標値	1,000	1,000	1,000
				実績値	908	914	889
				算出根拠等	達成率(%)	91	91
	成果指標	駐車場利用台数	台	目標値	40,000	40,000	40,000
				実績値	41,322	37,126	28,651
				算出根拠等	達成率(%)	103	93
	成果指標	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
				実績値	3,769	3,945	4,025
				算出根拠等	達成率(%)	75	79
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	218,252	253,526	167,247	
	受益者負担(使用料・負担金等)			1,935	1,805	1,620	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			105,593	136,905	54,688	
	一般財源			110,724	114,816	110,939	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	240	277	194	
	受益者	施設利用者	(B)	907,834	913,689	860,761	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・地域にとっては重要な雇用の場であり、地域活性化としてのニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・民間と競合する施設も多く、施設の譲渡を検討していく必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・指定管理者制度を活用し、民間の考えで効率的な運営にあつているところであり、利用者数は増加している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・指定管理者制度の導入により、利用者へのサービス向上はもとより、運営経費の縮減が図られ、施設運営手法としては有効である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	・豪雨・豪雪により、昨年より若干利用者数が減少しているが、延べ85万人を超える利用者があり、市長公約である観光客500万人に向けて効果があつた。 ・今後、目標を達成するためには、滞在型・通年型観光の推進が必要であり、そのためにも観光施設のさらなる有効活用は重要である。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・指定管理者制度による運営施設の拡充 ・類似施設の整理統合 ・休止施設の利活用の検討
---------------------------------------	--------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・計画的な維持修繕 ・休止施設の活用の検討 ・廃止可能な施設の検討 ・譲渡可能な施設の譲渡に向けた手続きの実施
----------------------	------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・維持修繕計画の見直し ・休止施設の指定管理者の公募 ・指定管理者の更新 ・施設の譲渡に向けた調整
------------------	------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・計画的な維持修繕 ・休止施設の活用の検討 ・廃止可能な施設の検討 ・譲渡可能な施設の譲渡に向けた手続きの実施					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62304	スキー場運営事業費		担当課	商工観光部 観光課	内線	2209
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6	商工費		分野	1	観光
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のところを魅了する滞在型・通年型の観光地づくりを行う
	目	2	観光施設費		施策	3	観光関連施設の整備
	根拠計画	高山市産業振興計画					
実施計画事業	観光・交流施設維持修繕改修事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	自然資源の活用施設や体験交流施設など、観光関連施設の整備を促進することにより、滞在型観光地づくりを推進するとともに地域の振興を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	スキー場2施設の指定管理者制度を活用した運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	2施設(モンデウス・アルコピア)の指定管理による運営 スキー場設備の整備					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	管理施設数	箇所	目標値	2	2	2
		算出根拠等		実績値	2	2	2
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
	成果指標	施設利用者数	千人	目標値	100	100	100
		算出根拠等		実績値	80	82	81
		算出根拠等		達成率(%)	80	82	81
	成果指標	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
		算出根拠等		実績値	3,769	3,945	4,025
		算出根拠等		達成率(%)	75	79	81
	補足事項						
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
		歳出(千円)		(A)	17,855	15,918	22,331
		受益者負担(使用料・負担金等)					
その他特定財源(国・県支出金・起債等)			847	493	439		
一般財源			17,008	15,425	21,892		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	224	195	275	
	受益者	施設利用者	(B)	79,699	81,633	81,139	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・地域の観光収入の柱であり、関連する宿泊施設、飲食施設に経済効果を与えている。 ・地域にとっては重要な雇用の場であり、地域活性化としてのニーズがある。 ・地域の学校のスキー研修等にも活用されており、冬期間の市民のスポーツレジャー施設となっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・民間事業者と競合する施設であり、施設の在り方を検討していく必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・一時は利用者が減少したが、指定管理者の努力によって近年は徐々に利用者が増加している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あげられている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・指定管理者制度の導入により、利用者サービスの向上や運営経費の削減が図られ、施設運営手法としては有効である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・利用者数は増加傾向であり、市全体の観光客入込者数にも影響を与えている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・県内でも多く存在するスキー場の中から多くの利用者には選ばれるため、他スキー場との差別化が図られるよう、新サービスの提供等を検討し、積極的なPR活動を展開していく必要がある。
---------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・市営スキー場の今後の運営方針を早期に定める必要がある。
----------------------	------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・地域のヒュッテ組合などの関係者と意見交換を実施し、今後のスキー場運営について協議する。 ・市営3スキー場と連携したPR活動を実施する。 ・今後に向けたスキー場の効率的な運営を検討する。
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・市営スキー場の在り方を検討するとともに指定管理者制度による運営を実施していく。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・市営スキー場の今後のあり方を検討する必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	62315	観光案内所運営事業費		担当課	商工観光部 観光課	内線	2216
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	6	商工費		分野	1	観光
	項	2	観光費		基本施策	1	人々のこころを魅了する滞在型・通年型の観光地づくりを行う
	目	2	観光施設費		施策	2	受入体制の整備
	根拠計画	高山市産業振興計画					
実施計画事業	観光案内所運営事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	観光客満足度を高めることで、よりたくさんの観光客を誘致する。また外国人観光客への対応も行い、海外からも観光客を確保する。		
概要	事業の実手法(手段)	・飛騨高山観光案内所の指定管理者制度による運営 ・新穂高センター(奥飛騨温泉郷観光案内所)の運営 ・観光案内所窓口及び電話での観光案内、外国語版も含めた観光パンフレットの配布		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・飛騨高山観光案内所の指定管理者制度導入 ・新穂高センター(奥飛騨温泉郷観光案内所)の開設 ・奥飛騨温泉郷観光案内所の外国人観光案内所(ビジット・ジャパン案内所)カテゴリ1認定					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	観光案内所における日本人観光客への案内件数及びパンフレット配布件数	件	目標値	300,000	300,000	300,000
				実績値	296,284	311,699	308,179
				算出根拠等	観光統計	達成率(%)	99
	活動指標	観光案内所における外国人観光客への案内件数及びパンフレット配布件数	件	目標値	23,000	23,000	23,000
				実績値	32,796	46,082	56,918
				算出根拠等	観光統計	達成率(%)	143
	成果指標	高山市への再来訪の意向	%	目標値	100	100	100
				実績値	99	99	99
				算出根拠等	観光統計	達成率(%)	99
	成果指標	観光客入込数	千人	目標値	5,000	5,000	5,000
				実績値	3,769	3,945	4,025
				算出根拠等	観光統計	達成率(%)	75
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
			目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,407	4,427	19,011	
	受益者負担(使用料・負担金等)					257	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			4,407	4,427	10,047	
	一般財源					8,707	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	13	12	52	
	受益者	案内所利用者	(B)	329,080	357,781	365,097	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・観光客への対応が主であるため、直接的には市民はあまり必要とされていないが、観光客に対する積極的な観光案内を求めている点で、ある程度のニーズがあると考える。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・今後、奥飛騨温泉郷観光案内所の指定管理導入について検討をしていく必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・日本人、外国人共に案内件数が増加し、高山市への再来訪希望割合も9割以上と高いため、目的とする成果はあがっていると考える。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・消耗品費の削減に努めるなど、無駄のない事業の実施が図れている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・日本人、外国人共に案内件数が増加しており、高山市への再来訪希望割合も高いことから、市長公約の実現を図る上で有効に機能したと考える。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・多岐に渡る観光客のニーズに応えるため、よりきめ細かな対応を図っていく必要がある。
---------------------------------------	-------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・新穂高センターの指定管理について検討する必要がある。
----------------------	-----------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・特殊な問合せ案件に対しても真摯に対応し、接客意識の向上を図る。 ・近隣の観光案内所に積極的なイベント等の情報共有を図る。 ・新穂高センターの指定管理導入について検討する。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・近隣の観光案内所との連携を図りながら、広域観光案内の実現を図る。 ・利用者のニーズに合った観光案内をすると共に、国内外問わず、案内窓口の拠点として、利用者に再訪を促すことのできるような運営を図る。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	11120	奥飛騨温泉郷観光施設運営事業費	担当課	商工観光部 観光課	内線
種別	12	観光施設事業特別会計	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	2216
予算	会計	12	総務費	1	観光
	款	1	総務管理費	1	基本施策
	項	1	一般管理費	3	観光関連施設の整備
根拠計画	高山市産業振興計画				
実施計画事業	観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事業				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	・大規模な駐車スペースによる利便性の提供により、誘客を図る。(上高地・乗鞍岳含む)		
概要	事業の実施手法(手段)	・あかんだな駐車場の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・目標どおりの営業日数を確保できたが、繁盛期の8月に記録的な豪雨や台風に見舞われたため、昨年度より利用台数が減少した。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	あかんだな駐車場営業日数	日	目標値	210	210	210
				実績値	210	211	212
	成果指標	あかんだな駐車場利用台数(普通車)	台	目標値	47,500	47,500	47,500
				実績値	55,692	52,616	47,885
	成果指標	あかんだな駐車場利用台数(大型バス)	台	目標値	630	630	630
				実績値	511	492	201
	成果指標	あかんだな駐車場利用台数(自動二輪)	台	目標値	250	250	250
				実績値	281	313	289
	成果指標	あかんだな駐車場使用料	千円	目標値	25,000	25,000	25,000
				実績値	28,924	27,355	24,157
	算出根拠等	実績表	達成率(%)	116	109	97	
			達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	14,351	13,585	13,216	
	受益者負担(使用料・負担金等)			14,351	13,585	13,216	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	77	77	88	
	受益者 延べ利用者人数		(B)	185,242	175,381	149,509	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・大規模な駐車スペースを確保することにより、奥飛騨温泉郷地域への誘客が図られることから、ある程度の市民のニーズはあると考える。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・上高地や乗鞍へのバス利用者の重要な駐車場であり、安定的な経営が求められることから、高山市が事業主体であることは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・繁盛期の8月に記録的な豪雨や台風に見舞われたため、使用料収入の目標値にあと少し達成できなかった(目標値の約97%)。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・ある程度事業の効率化、コストの削減は図れているが、更なる改善に向けて努力する必要があると考える。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・大規模な駐車スペースを提供することにより、上高地や乗鞍岳への観光客の集客が図れ、市長公約の実現に向けて有効に機能した。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なかを記入)	・需用費等更なるコストの削減と、より市民のニーズに合った運営 ・指定管理者制度の導入も考慮に入れながら、成果対コストを更に向上させる。
-------------------------------------	------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・引き続き適切な施設管理に努める必要がある。
----------------------	------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・コストの削減を意識しながら、駐車場利用者が快く利用できるような運営をする。
------------------	----------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・施設内設備の老朽化にも適切に対応しながら、利用者の利便性を重視した運営をする。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・引き続き適切な施設管理に努める必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	11125	飛騨高山スキー場運営事業費	担当課	商工観光部 観光課	内線	2216
予算	会計	12 観光施設事業特別会計	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして		
	款	1 総務費	分野	1 観光		
	項	1 総務管理費	基本施策	1 人々のところを魅了する滞在型・通年型の観光地づくりを行う		
	目	1 一般管理費	施策	3 観光関連施設の整備		
根拠計画	高山市産業振興計画					
実施計画事業	観光施設運営事業、観光・交流施設維持修繕改修事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	-
	どういう状態にしたいのか(意図)	・スキー場利用者数を増加させ、冬季の観光振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨高山スキー場の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・12月の記録的な豪雪による倒木の影響で、県道が通行止めとなり、スキー場オープンが1月7日と大幅に遅れた。前年度より営業日数、利用者数とも減少した。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	飛騨高山スキー場営業日数	日	目標値	121	121	121
				実績値	100	101	84
				算出根拠等	達成率(%)	83	83
	成果指標	飛騨高山スキー場の年間利用者数	人	目標値	50,000	50,000	50,000
				実績値	43,743	44,803	35,196
				算出根拠等	達成率(%)	87	90
	成果指標	リフト使用料	千円	目標値	40,000	40,000	40,000
				実績値	32,410	34,229	27,797
				算出根拠等	達成率(%)	81	86
	成果指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	59,929	70,053	68,682	
	受益者負担(使用料・負担金等)			41,537	43,367	37,559	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			18,392	26,686	31,123	
	一般財源						
	コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,370	1,564	1,951
	受益者	施設利用者数	(B)	43,743	44,803	35,196	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市民を含めスキー場に対する関心が低くなっているが、教育的観点から見ても、スキー場は市民にとって重要な施設であるため。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・国立兼鞍青少年交流の家との兼ね合いから見ても、市が事業主体であることは概ね妥当であると考え。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・記録的な豪雪の影響で営業日数が減少、利用者数も減少した。 ・若者を中心にスキー離れが深刻となっており、平成23年度から「19歳限定でリフト料金を全日無料」という企画を行っている。若者を含めたスキー場利用者の増加のため、新たな誘客施策を考える必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・限られた予算中である程度効率的な事業執行ができていいる。しかし、施設内設備の老朽化が激しいため、緊急性の高いものから優先的に、整備する必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・スキー場の運営は冬期間の観光振興・観光客誘致事業としての役割を担っており、市長が掲げる観光客数の達成に対してある程度の効果があったと考える。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	5 / 10	→	100点換算	50 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・有益な誘客方法及びスキー場振興策の検討・実施 ・施設内設備の老朽化が激しいため、緊急性の高いものから優先的に整備が必要
---------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・市営スキー場の今後の運営方針を早期に定める必要がある。
----------------------	------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・関係団体の一つである(独)国立兼鞍青少年交流の家と意見交換の実施 ・安全安心なスキー場運営に向けて、リフト等部品の更新工事の計画・設計 ・その他、今シーズンの誘客を目的とする企画会議の実施 ・効率的な運営方法の検討
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・有益な誘客方法及びスキー場振興策の検討・実施 ・老朽化した施設設備の修繕・工事の計画的な実施					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・市営スキー場の今後のあり方を検討する必要がある。					